

## Library Information

## 図書室からのお知らせ

## ■本の入荷について

図書室では、新刊本や話題の本など、新しい本を入荷しています。

本のクエストについても、図書室カウンターにて受け付けています。皆さんの読みたい本や気になる本などがありましたら、お知らせください。

また、お探しの本などがありましたら、お気軽にカウンターにご相談ください。

- 図書室の利用や、図書の検索・クエストなどについてのお問い合わせ先  
町生涯学習センター図書室  
☎096-234-2447 (内線331)  
✉klg110@town.kosa.lg.jp

## 人殺しの罪は命により贖うべきか

東野 圭吾著 / 『虚ろな十字架』



光文社

小説

11年前に娘が殺された。数年後仕事も替え、妻とも離婚した。その元妻が何者かに刺殺された。もし、あのとき離婚していなければ、私はまた遺族になるところだった…。「死刑制度」という主題のみならず、「刑罰」とは？、「贖罪(しよくざい)」とは？、「命」とは何か？という、答えの出ない大きな問いについて、深く考えさせられます。

## 人とつながっていることのすばらしさ

村上 しいこ作 / 『これ、もっていき』



講談社

児童書

「これ、もっていき」って、おつかいの帰り道に誰かに呼び止められた。最初は、きゅうり畑のおっちゃん。次は、トマトを抱えたおばあちゃん。そのつぎは…。夏の風景が生き生きと描かれ、誰もが誰かとつながっていることのすばらしさを、さりげなく、そして、さわやかに描いた絵本。こどもたちへの読み聞かせにもおすすめです。

## リーダーに勇気を与えるビジネス本

蒲島 郁夫著 / 『私がくまモンの上司です』



祥伝社

一般書

「血を割れ!」。1,200億円以上の経済効果を生んだくまモンプロジェクトは、蒲島郁夫県知事のこの一言から始まった。何が人を動かすのか。今、世の中にはどんなリーダーが必要なのか。日本で最も政治家らしくない県知事の生い立ちやユニークな経歴、人間的な魅力がとても興味深い。表紙はゆるーいですが、中身はゆるーくない1冊です。

## いのちがこもった「食」への想い

佐藤 初女著 / 『初女さんのお料理』



主婦の友社

教育・娯楽

92歳のいまも、日々、初女さんが「いのち」を込めて作るおいしい料理と「食」への熱い想い。若いころ、大病を薬ではなく、食事で克服した初女さんの信念は、「食はいのち」。食事の大切さを語りながら、多くの人たちに喜ばれてきた味わい深いレシピの数々を紹介。初女さんの丁寧で、心と手をかけた食事の作り方がよくわかる1冊です。

## 町生涯学習センター図書室のご利用について

- 開館時間 午前9時～午後5時 ■ 休館日 毎週火曜日、年末年始 ■ 貸出冊数・期間 1人3冊まで、8日間

**多**くの死者、行方不明者を出した東日本大震災から3年以上が経過しました。

今回、私が紹介する本は、『おもかげ復元師の震災絵日記』です。津波の影響で傷んだご遺体を「少しでもきれいに生前のおもかげがわかるように復元して、ご家族に会わせてあげたい!!」と、笹原さんはボランティアで300人以上のご遺体を復元されました。

## 今月の案内人



ハーグレイブ明美さん  
〔岩下一区〕

たくさんの小さいのちも犠牲に…。生後10日目の赤ちゃん。2才の女の子。

## ～ My Favorite Story ～

## Read This Story! 私のおすすめ図書

『おもかげ復元師の震災絵日記』(笹原留似子著)

東日本大震災後、津波被害の激しかった沿岸地域で、300人以上のご遺体を復元した女性納棺師。彼女が描いた絵と言葉のスケッチブックを本に。

幼い子供たちに我が子の姿が重なり、涙がとまりませんでした。

復元されたお顔はとても穏やかで優しいタッチで描かれています。

しかし、添えられた文章には、残された家族の悲しみ苦しみが書き綴られています。一人一人に寄り添いながら、現在も復元納棺師の仕事をしてながら被災者支援に尽力されています。

3月11日、一瞬にしてあたりまえの日常があたりまえではな

くなりました。皆さんも改めて自分のまわりの「あたりまえ」をみつめなおしてみてください。

- あなたの「おすすめ図書」をご紹介してみませんか？  
町生涯学習センター図書室  
☎096-234-2447(内線331)  
✉klg110@town.kosa.lg.jp